

「おそめだぬき」

はたでら
畑寺のお話

はたでら おにばら こす
畑寺から鬼原へ越す、つななぎ峠とうげという寂しい山道があります。

ある日の夕方、つななぎ峠を女の人が子どもを背負せおって上りか
けると、坂本のお寺のおもりをしていた「おそめさん」というおば
あさんが、手ぬぐいをかぶって立っていました。

子どもを背負った女の人は、

「おそめさん、おそめさん。」

と、何回も声なんかいをかけましたが、返事へんじをしないので、不思議ふしぎに思っ
てもう一度、いちど

「おそめさん、おそめさん。」

と、声をかけてみました。しかし、返事がないので、帰りかえりかけてい
ましたが、もう一度振り返ふりかえって見ると、おそめさんの姿すがたは見え
ないのです。女おその人は恐ろしくなり、走ひきかえって引き返しました。

そして、あくる日、坂本へ行き、おそめさんに会いました。

そして、

「おそめさん、昨日きのうの日暮れにつななぎを通とおりよったんで。」

と聞いてみたら、

「わたしやつななぎなんかへ行きやしませんよ。」

と言ったそうです。

それから、あれはおそめさんに化けた狸であったと言って、この話はうわさに上ってきました。

それ以来、「つななぎ峠には『おそめだぬき』が出る。」という言い伝えが今も残っています。